

Greenthumb

2021.vol.18
NPO法人秋田グリーンサム倶楽部
奇跡を呼ぶみどりの指

ボールの転がり
友だちの笑顔
緑の触感は最高の喜び

Greenthumb

2021年 18号

【季刊Greenthumb 18号】2021年1月1日発行 発行●むつみ造園土木株式会社 代表取締役 佐々木創太
〒010-0951 秋田市山王5丁目13-3 TEL018-863-2011 FAX018-864-1316 URL <http://www.mutsumi-l.co.jp>

自然の音に包まれて
歩くサウンドスケープの魅力

CONTENTS 2021 vol.18

秋田県立北欧の社公園をかける...2

◆Greenthumb TOPICS...5
●社ゼミ「まなびのもり」

中国の森づくり、140万本の植樹の取組／武田英文...6

起業を成功させるポイント／柴野精允...9

～大人も楽しめる英会話～

「やってみよう!英語で道案内」／佐川ひとみ...9

■プロジェクト未来遺産2019・秋田県初の登録

100年後の未来へ!石川理紀之助翁の教え...10

◆山内達哉さん・映画音楽をプロデュース...11

●秋田グリーンサム倶楽部メンバー・寄稿

秋田の目に見えない力 /野地秩嘉...12

渡部一之／近藤博／安井香奈子／石川久男...14

PICK UP! Greenthumb Friends / ●吉田果樹園・吉田賢...16

●秋田グリーンサム倶楽部メンバー・寄稿

わざわいとインフラストラクチャー／川上 海...17

PICK UP! Greenthumb Friends / ●木工舎つきのわ・岡本雄...18

コロナに負けるな! GO to Park!...19

緑産業の未来づくり、社とガーデンの品質(品格と本質)を高める匠の人びと...20

グラスの先に見えるバラ色の未来／谷々兼慶...22

2025年「社とガーデン」グランドオープンを目指して!!／佐々木吉和...23

■むつみグリーンサムガーデン

〒010-0201 湯上市天王字棒沼台306

TEL018-878-2011 FAX018-878-4963

■NPO法人秋田グリーンサム倶楽部

秋田グリーンサムの社

〒010-0201 湯上市天王字細谷長根127

TEL018-878-3986 FAX018-878-2950

URL <http://akita-gt.com>

Email greenthumb@mutsumi-l.co.jp



Human
Ecology
Design

【季刊Greenthumb18号】2021年1月1日発行

発行●むつみ造園土木株式会社 代表取締役 佐々木創太

〒010-0951 秋田市山王5丁目13-3 TEL018-863-2011 FAX018-864-1316

URL <http://www.mutsumi-l.co.jp>

現在、グリーンサムの杜のサッカー場は養生中です。2021年初夏には利用可能になります。



グリーンサムの杜に天然芝のサッカー場が登場！

グリーンサムの杜の新たなスポーツエリアとして、サッカー場が完成しました。緑の木々に囲まれた天然芝のサッカー場で、気持ちよくプレーができる環境が整っています。現在、芝生は養生中となっておりますが、2021年初夏には思いっきりサッカーを楽しんでいただけます。

また、隣接する施設として、ジャグジーやサウナなども利用できるよう準備をしています。グランピングが体験できるテントハウスも考え中です。現在利用できるキャンプ場では、バーベキューなどが楽しめます。これからのグリーンサムの杜は、楽しく過ごせる仕掛けがいっぱい。今後をお楽しみに！



もらいました。土佐アドバイザーや渋井コーチからのアドバイスは、自分自身も大変勉強になりました。入社してここまで思うような走りが出ていませんが、駅伝シーズンに向けてチームの力になれるよう、今後の練習もがんばっていきます。

◆根塚みのり選手

今回、私は初めて秋田での合宿を経験しました。暑い日が続きましたが、秋田の皆さんは優しく、すれ違おうと明るく挨拶をして下さり元気をいただきました。

した。また、近くに競技場やジム、プールなどがあり、さまざまな場所で練習ができました。ランニングコースもたくさんあって、楽しく走ることができました。ランニング教室では直接指導させていただくことはありませんでしたが、皆さんが楽しそうに走っている姿を見て私自身が元気をもらい、もっとがんばろうという気持ちになりました。今後、駅伝に向けてより一層練習をがんばっていききたいと思います。



秋田県立北欧の杜公園

●パークセンター
秋田県北秋田市上杉字中山沢128
TEL.0186-78-3300
E-mail hokuo01@amail.plala.or.jp
http://www10.plapl.or.jp/hokuoupark/
*Wi-Fi(パークセンター内)利用可

●北欧の杜の情報を発信中!
Twitter、LINE、ホームページ、ブログも利用しています。ぜひ、ご覧ください。



豊かな自然の中でのランニング、自然に笑顔もこぼれます

日本ではおそらくここだけ。芝生のクオリティに感謝です。

高堰…この広い芝生の上を走れる環境が整っているのは、日本でおそらくここだけだと思います。牧場やラグビー場などがありますが、このメンテナンスされた芝生の上を自由に走れるというのは、なかなかない素晴らしい環境です。選手みんなの表情を見てもらえたらわかるとおもいます。この北秋田市の合宿に協力してくださった皆さまに、心から感謝しております。

を使う選手もいます。故障者にもプールは使えます。プールにも競技場にも公園にも、ホテルや空港からのアクセスが良くて便利です。

選手コメント(三井住友海上・女子陸上部活動レポートより)

◆田邊美咲選手
秋田でランニング教室を開催するのは昨年到现在2回目となり、若い世代を中心にたくさんの方にお集まりいただきました。ストレッチや良い走り方へのためのフォームなど改めて自分自身の勉強になることも多く、何より皆さんと楽しく走ることのできた皆さんの元気をもらうことができました。

これをきっかけに走ることをもっと好きになっていただけたら嬉しいです。短い時間ではありましたが、楽しいひとときをありがとうございました。

◆岡本春美選手

北秋田での合宿中は昨年より気温が高く、毎日厳しい暑さが続きましたが、プールの利用や、緑が多く涼しい「北欧の杜公園」での練習ができました。また今回もランニング教室で北秋田市の皆さんと交流ができ、短い時間でしたが一緒に楽しめてとても嬉しかったです。

当日は立っているだけで汗が出るほど暑い中での教室となりましたが、こまめに水分補給をするなど走ること以外にも熱中症対策の必要性を実感することができたのではないかと思います。

駅伝で皆さんに良い結果を報告できるようにがんばっていききたいと思います。

◆福居紗希選手

始めて北秋田市での合宿に参加しました。残暑が厳しい中での合宿となりましたが、整った環境の中で練習に取り組むことができました。

ランニング教室も猛暑の中たくさんの方々に参加していただき、元気に走る姿にこちらもパワーを



左から渋井コーチ、草苺(北欧の杜公園管理スタッフ)、土佐アドバイザー、高堰ゼネラルマネージャー

●土佐礼子アドバイザー

愛媛県松山市出身。アテネ五輪、北京五輪とオリンピックに2大会連続出場。世界選手権では2度メダルを獲得。むつみ造園創立50周年記念講演では「夢を力に」と題し、競技人生の貴重なお話を聞かせていただきました。

●渋井陽子コーチ

栃木県黒磯市(現・那須塩原市)出身。女子1万メートル日本記録保持者。2004年のベルリンマラソンを当時日本最高の2時間19分41秒(現在は歴代2位)で制し、2008年北京五輪の女子1万メートルに出場した。

●高堰崇ゼネラルマネージャー

北秋田市阿仁戸島内出身。



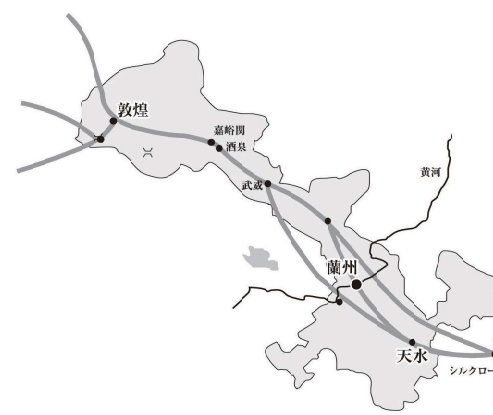
17年毎年続けた、 甘粛省での植林事業

私は大学で林学を学び、卒業は「秋田杉の挿し木苗」でした。将来は海外で木を植えたり育てたりする、植林の仕事に就きたいと思っていました。秋田県庁の森林・林業の試験研究部門の仕事を経て10年経った頃、秋田県は中国甘粛省と友好協力提携を結びました。甘粛省の関係者が来秋した時、私は「植林事業をやってみよう」とお話すると、とても興味を持ってくださり、事業計画書などのお手紙のやり取りを経て、2004年、私は一人で現地に視察に行きました。(写真1)甘粛省の蘭州市に行ったのですが飛行機から街並みを見下ろして、愕然としました。緑が全然ないんです。茶褐色の大地が広がり、大変なところに来たなと思いました。

年間降水量を見るとよく分かるのですが、秋田市の年間降水量は約1800ミリ。蘭州市は約350ミリ、敦煌は約40ミリ。秋田市で30分降る雨の量が敦煌の年間降水量なんです。いかに雨が少ないか、ですよ。



【写真1】事業地_略図



中国の森づくり、 140万本の植樹の取組

2020年2月21日(金) グリーンサムの杜カフェにて開催

講師：武田英文

武田英文 (ただひでふみ)
公益社団法人秋田県林業育成協会会長
特定非営利活動法人あきた白神の森倶楽部事務局長 (副理事長)
秋田雪の会会長
甘粛秋田会名誉会長



【写真2】蘭州_南北両山植林事業

甘粛省の蘭州を中心に、 天水と敦煌の植林へ。

蘭州は市内の中心を黄河が流れ、その両側が山になっていて南北両山と呼ばれています。中国政府も緑化事業に取り組んでいて、この南北両山が最重要地区になっています。写真2を見ると、南北両山の手が植林されています。奥の山は茶褐色になっていることが分かります。この山を段々に切って大きめの植え穴を掘り、コノテガシワ等を植えていきます。(写真3)、苗が2m程もあることが分かりますか？植林事業の結果を早く出したという現地の方の考えで、人力で土付きの大きな苗木のような苗木を運ぶのはとても大変でした。今では植林のトップの方もお話できたので、なるべく小さな苗木で植林を行いたいと思います。また、この山には配管をめぐらせ、地下水や黄河の水をポンプアップし、スプリンクラーで水をまく工事も行っています。

写真4は秋田県青少年交流事業で、秋田県の高校生と蘭州市の高校生と一緒に植林の作業をしました。言葉は通じなくても、すぐに仲良くなる若い人たちが楽しそうでした。緑色の文字の「重生緑色」は、「緑の大地を取り戻そう」という意味です。



リンゴの産地、天水へ 自分たちの力でできる緑化

天水の写真です(写真5)。降水量が500ミリ以上あるので、山の上にも木が育っているのがわかります。このくらい降水量があると、スプリンクラーなどは必要なく、乾燥した時はポンプ車で水をまいたりする程度です。写真6の看板の下には、アブラマツが植えられています。ニセアカシアの木もあります。同時に植えられたのは、リンゴの木です。リンゴ農家の収入で、緑化も果樹園も経営できる仕組み・意欲を導き出すというプロジェクトでした。ここでは緑の羽根の募金のお金を1部使わせていただいています。この看板はそのPRのために設置しています。天水では2年間だけ緑化事業に協力しましたが、その後は何とか自分たちの力で緑化できるように頑張っていくってほしいと思います。

シルクロードで知られる敦煌 点滴と呼んでいる水やり方法

数日前に雨が降ったという割には、地面がひび割れています。市街地に近いところに木を植えている写真7では、大きな穴を掘って植えていることが分かるかと思いますが。みんなが持っているバケツには水が入っています。水がたくさんあるわけではないので、トラクターに水を持ってきてそれを汲んで水をあげています。



【写真4】
秋田県青少年交流事業



【写真5】天水_造林プロジェクト



【写真6】天水_ニセアカシアと油松



【写真7】敦煌_記念植樹

【写真3】蘭州_コノテカシワ



2020年2月15日
起業を成功させるポイント
講師：柴野精允

柴野精允（しばのあきのぶ）
 昭和21年 新潟県柏崎市生まれ
 昭和44年 法政大学経営学部卒業
 // 国分株式会社入社
 札幌支店経理課、本社経理部経理課
 昭和58年 退社し秋田の実家へ戻る
 昭和61年 ㈱サンライズ企画設立
 昭和63年 ニューコトブキ井川店開店
 平成2年 // 琴丘店開店
 平成5年 // 八竜店開店
 現在はニューコトブキ琴丘店のみ経営



「物事を一面だけで見ないこと」
 「普通のことを普通にやること」

新潟県柏崎市生まれの柴野さんは、6歳で秋田に移住し、秋田南高校（一期生）に入学し、法政大学に進学。ゼミの先生から教わった「物事を一面だけで見ないこと」「人間は30歳前半までの勉強で決まる」という言葉が忘れられないといいます。大学卒業後は創業から300年も続く食品卸売業の国分株式会社に入社。上司からよく本を読めと言われ、経営分析や民法、商法などを次々と読破しました。本を読みながら仕事すると、仕事の成り立ちがよく理解できたといいます。また、会社の研修でニューヨークの大学で「業態」を学びました。デパートやコンビニエンスストアなどの業態が変化することがよくわかりました。人を育てることに一生懸命な会社に勤めることができ良かったと思います。学生時代に新宿の母（占い師）から言われた「30歳までは家に

帰るな」という言葉もあり、30歳半ばで秋田に戻ることに。柴野さんのお父さんはパチンコ店を経営していました。経営に携わることになった柴野さん、まずは従業員教育をしました。経営を3ヶ月やって分かったことは「基本をやればよい」とのこと。「普通のことを普通にやること」が大事です。管理システムや営業時間など、大手の真似をしたら良いわけではないことも分かり、大手がカードシステムを導入した時、事業をやめようと思いましたが、事業をやめることもすごく難しい判断だと思えます。柴野さんは「自分のお金が減ったらやめなさい」といいます。また、自分を理解してくれる人、サポートしてくれる人にたちに恵まれていたと気づき、そういう人たちを大切にしたら良いと教えていただきました。「ここにいる佐々木会長とも長い付き合いです。これからもよろしくお願いたします。」

2020年3月5日
～大人も楽しめる英会話～ 「やってみよう! 英語で道案内」
講師：佐川ひとみ

6年前より秋田市内で英会話中心の教室開講。現在2教室を運営。2歳から高校生までの英会話・英語・数学を楽しくわかりやすい指導を心がけています。秋田市内の保育園3園と小学校でも英語活動を指導。秋田市旭北地区民生児童委員。秋田市立中学校教育復興会理事。



2020年にはオリンピックが開催予定で、これを機会に手軽に使える英語を学ぼうと始まった、大人も楽しめる英会話。3月5日に行われた、3回目の「やってみよう! 英語で道案内」の会を取材しました。

まずは英語で自己紹介。分からない単語や言いたいことなど、佐川先生からの確かなアドバイスがあるので、皆さん自分のことをいくつか話せるようになっていました。その後は本題の道案内へ。例文に従って、「右に曲がって」「～の隣に」などを応用しながら道案内の説明をしてみます。練習していくうちに、ホワイトボードを使って英語で道案内できるようになってきました。和気あいあい、とても楽しい杜ゼミの英会話でした。



【写真8】敦煌_胡楊（枯死木）

敦煌では結構な砂嵐が舞うということで、道路の両脇に木を植えて防風林をつくりました。中国名で胡楊、ポプラの一種です。タジキスタン共和国などに分布する木です。下の地下水を吸い上げて生きています。中国には胡楊のことわざがあり「胡楊生而千年不死、死而千年不倒、倒而千年不爛」胡楊は生きて千年枯れず、枯れて千年倒れず、倒れて千年腐らざると言われています。天然の胡楊と私です。ことわざがあるように、とても神聖な木として扱われています。(写真8)

【写真9】敦煌_注水装置



【写真10】敦煌_陽関郊外



年間降水量40ミリと非常に雨が少なくと言いましたが、使える水が少ないので、植林後にたくさん水をかけるわけにはいきません。少ない水をいかに有効に使うかといいますが、ゴム管の根本をポツポツと穴を開けているんですが、その穴から水をちよちよと出して、水をあげるんです。私もこれを「点滴」と呼んでいます。(写真9)

敦煌から60km。タクラマカン砂漠の陽関

シルクロードで知られる敦煌のイメージ、砂漠のイメージはありませんか？敦煌に観光で訪れる人は、道路から砂漠を見たかたまりします。砂漠すべてを緑化してしまうと、観光のイメージダウンにもなってしまうということで、敦煌から60km離れた陽関で、タクラマカン砂漠の緑化事業を2018年

【写真11】これまでの植林面積と本数

| 事業地 | 事業名 | 活動期間 | 面積 | 植栽数 | 助成団体 |
|------------|-------------------------|-------------|-----------------|------------|---------------|
| 甘肃省 蘭州市 | 南北両山植林事業 (森林造成モデル事業) | 2004年-2009年 | 241ha | 581,000本 | 日中緑化交流基金 |
| | 南北両山水土保全林事業 | 2010年-2015年 | 138ha | 347,760本 | ※ |
| 甘肃省 天水市 | 黄土高原植生回復事業 | 2016年-2018年 | 111ha | 367,200本 | ※ |
| | 日中友好経済型 生態造林プロジェクト | 2015年-2016年 | 10ha | 10,960本 | (公社) 国土緑化推進機構 |
| | 約子溝植物園専門園区 造成事業 | 2019年- | 0.2ha | 180本 | ※ |
| 甘肃省 敦煌市 | 日中友好防風林造成事業 | 2011年-2017年 | 29ha | 18,600本 | (公財) イオン環境財団 |
| | 日中友好緑化事業(陽関) | 2018年- | 13ha | 134,000本 | ※ |
| 合計 | | | 542ha 8,130畝 | 1,459,700本 | |

から行っています。写真10、砂漠の奥に小さな小屋があるのが分かりますか？あれは「干しぶどう小屋」なんです。陽関はブドウの産地でもあり、干しぶどうやワインが市場に並んでいます。

50年後も、100年後も緑化をずっとつなげてほしい。

写真11は、2004年からの15年間の植栽面積と本数、スポンサーです。日中緑化交流基金は15年間継続して参加させていただきました。緑化事業は大変息の長い事業になりますので、次の世代にどんなに続いていっても変わらないと話になりませんので、若い人につないでいかないとけない。緑化は50年、100年、そしてその先にもずっと続いてほしいと願っています。



田んぼの楽校 --- 里山のこと、お米になるまでの工程を1年間通して草木谷を守る会の方々と一緒に学びます。



春の田植え、泥んこまみれになりながらも一生懸命です。

草木谷の田んぼは無農薬、雑草もたくさん生えるのでみんなで取ります。



稲刈りも鎌の使い方を教えてもらって、自分たちで刈りました。

リキノスケ未来塾の自然観察会の様子



野鳥の羽を発見！瞳をキラキラさせる子どもたち

生き物調査では水生生物を採取網を持って生き物探し。



脱穀は昔ながらの方式で教わります。興味深々です。

TOPICS

山内達哉さん・映画音楽をプロデュース！映画「望み」をヴァイオリンが奏でる。

石川理紀之助翁物語の曲「秋田からの爽風」やグリーンサム倶楽部のテーマ曲「Greenthumb〜神様からの贈り物〜」を作ってくださった、ヴァイオリン奏者・山内達哉さんが、KADOKAWA映画「望み」の音楽を手掛けられました。山内さん、映画音楽デビューおめでとうございます！

<山内さんからのお手紙をご紹介します。>……………

いつも温かいご支援誠にありがとうございます。

いつも応援くださる皆様には、直接お会いしてご報告したかったのですがコロナの影響でお伺いすることも難しい為、お手紙を送らせていただきます。

この度、映画監督の堤幸彦さんにお声掛けいただき、10月9日公開しました堤幸彦監督作品・KADOKAWA映画「望み」の作曲、演奏を手がけさせていただきました。映画音楽の作曲は、これまでの作曲とは違う、新しい事への挑戦続きでしたが、堤監督の描く映像作品に惹きつけられ、現実と映画作品の区別がつかないような不思議な感覚で、作曲に没頭しておりました。そして物語から感じられるイメージから作曲をし、映像や、役者さんの演技、台詞、役者さんのイメージから創る、これまでの私の「作曲」の概念がたくさん崩された、新世界を体験させていただきました。

また今回は改めて、『ヴァイオリン』に向き合える貴重な時間ともなり、出来る限りヴァイオリンの生音を使い、「音」にこだわり、またヴァイオリンの音を加工し世界観を作るなど、新しい事にも挑戦いたしました。使用したヴァイオリンは天空の城と呼ばれる、日本の名器兵庫県朝来市の「竹田城跡」の松から作られた「天空のヴァイオリン」を使用し想いを込めレコーディングをいたしました。その音色にも耳を傾けていただけましたら嬉しいです。

お伝えしたいことは尽きないのですが、またお会いできる日を楽しみにこれまで応援くださった皆様には、新しい山内達哉を、見ていただくご報告をさせていただきます。是非、劇場の、立体ある音空間で映画「望み」をお楽しみ頂けたら幸いです。またサウンドトラックもユニバーサルミュージックさんより発売しております。皆様の感想なども聞けたら大変嬉しいです。

それでは、寒くなってまいりましたので、どうぞお体大切にお過ごしください。またお会いできる日を楽しみにいたしております。

音楽人 山内達哉



プロジェクト未来遺産 2019・秋田県初の登録!おめでとうございます。

100年後の未来へ！石川理紀之助翁の教え。



秋田県初、草木谷を守る会の活動がプロジェクト未来遺産に登録されました。

日本ユネスコ協会連盟の「プロジェクト未来遺産」に、秋田県では初めて、草木谷を守る会の活動が登録されました。プロジェクト未来遺産は、自然・町並み・民俗芸能など、地域の遺産を地道に守り、継承していくこととする人たちが、市民の取り組みに焦点を当て、その活動を100年後の子どもたちに伝えていけるよう、日本全国で応援の輪を広げていくことを目指しています。

NPO法人「草木谷を守る会」は、地域や小学校と連携した循環型農業などに取り組み、石川理紀之助翁のゆかりの地「草木谷」を拠点に、里山や八郎湖の環境保全活動にも取り組んでいます。また、地元の小学生在に田植えから稲刈りまで、昔ながらの農法で体験する「田んぼの楽校」を開き、毎年賑やかな声が草木谷に響いています。

天地の御恵み忘るべからず

2020年2月24日、プロジェクト未来遺産2019登録証伝達式が行われました。日本ユネスコ協会からの登録証の授与、地域の児童によるリキノスケ未来塾の活動発表、琉球大学名誉教授・土屋誠氏による記念講演があり、参加者の草木谷を守る会の皆さんもとても興味深く聞き入っていました。登録証授与の際、草木谷を守る会代



草木谷のメンバーのみなさん。毎年童心にかえって、子どもたちと一緒に楽しみながら活動しています。どんどん若返るメンバーです昔ながらの農法で農作業をし、自然環境再生活動に携わり、農業は環境を守ることに繋がっていることを子どもたちが体験し、学びます

表の石川紀行(理紀之助翁の玄孫)さんは、「登録されたことを大変光栄に思います。理紀之助の教えでもある、天地の御恵み忘るべからず。この言葉にあるように、自然の恵みに感謝し、里山というハートを生かした活動を今後も続けていけたらと思います。」と挨拶されました。

来賓挨拶では、潟上市長の藤原一成氏が「この活動の登録は続けていかないと意味がなくなってしまう。未来のレガシー。今日は皆さんと必ずこの活動を未来へつなげる決意の日となります。」と話され、マスク姿の皆さんがうなずいていたのが印象的でした。

100年後も理紀之助翁の教えが継承され、草木谷に、子どもたちの元気な声が響いていますように！

世界中がコロナ禍に振り回された2020年は、国内においても自由に行き来がままならず、当倶楽部においても予定していたイベント等を自粛せざるを得ませんでした。このような状況下の中、グリーンサム倶楽部メンバーの皆様よりメッセージを送っていただきましたのでご紹介します。これからも感謝の心をもって今できることは着々と進めてまいりたいと思います。皆さん、これからも応援よろしくお願いします。

秋田の目に見えない力

ノンフィクション作家 野地 秩嘉 のじ つねよし

■東北の妖怪

秋田と岩手を筆頭に、東北地方には妖怪が多い。そして、妖怪は身近な存在に見える。岩手県の遠野を舞台にした柳田国男の『遠野物語』には河童、天狗、ざしきわらしといった妖怪が出てくる。オシラサマ（東北地方で信仰されている家の神）を祀る家の話も書いてある。

秋田では、なまはげだ。今でも大みそかになるとなまはげがやってくる。1年に1度、妖怪がやってくるのは日本中で秋田くらいのものではないか。

秋田で人気のローカルヒーロー「超神ネイガー」に出てくるヒーロー役の男性はこんなことを言っていた。なお、ネイガーという名前は、なまはげが叫ぶ「泣ぐ子（こ）は居ねがー」から取ったものだ。

「秋田では小学校3年生になるとサンタクロースはお父さんかお母さんだと自然にわかる。でも、なまはげのことは小学校6年生になるまで、みんな、信じている」

妖怪を信じている人は日本全国にいらっしゃるけれど、妖怪が生活のなかに存在しているのは秋田くらいのものだ。秋田の人は目に見えない世界があるこ

とを信じている。妖怪マンガの『ゲゲゲの鬼太郎』を描いた水木しげるはこう言っていた。「今の人は目に見えるものしか信じない。世の中が便利になるほど人は目に見えない大切なものを忘れてしまう」

■新型コロナ感染者の少なさ

新型コロナの感染者は東京、大阪、札幌など大都市で多く、地方では少ない。そして、特に少ないのが岩手、秋田といった東北地方だ。

「東京から来てくれるな」「帰省しなくていい」

このような言葉で都市からの移動を規制したこともあるだろう。だが、秋田、岩手の医療機関だけが特に新型コロナウィルスに対して適切な対処をしていたとも言えない。日本中の医療機関はどれも未知のウィルスを相手にして苦勞をしているのだから、条件は同じはずだ。

それなのになぜ、岩手、秋田、東北は感染者が少ないのか。

もうひとつの事実がある。

実は、子どもたちは新型コロナウィルスにほぼ感染しないし、発症しない。これまで、感染症の犠牲者といえば、ペストにせよ、コレラにせよ、子どもと老人だった。体力のない子供や老人が発病して命を落としていた。それなのに、子どもたちはほぼ感染しないという。

どうしてなのだろう。これについては医学者もまだ原因を究明できていない。

新型コロナウィルスについて、わかっていないことの方が多くけれど、最大の疑問は、なぜ、子どもたちは感染しないのか、ではないか。

■見えない相手との戦い

この1年、私たちが戦ってきたのは新型コロナウィルスという目に見えない敵だった。マスクを着け、手洗いをし、盛り場に足を向けないようにして自粛してきた。

戦い方はみんな同じだった。それなのに、秋田、岩手の人たち、そして、子どもたちはあまり感染していない。

これはわたしだけの考えかもしれないけれど、秋田、岩手の人たちは妖怪を信じている。目に見えないものの価値をわかっている。そして、子どもたちもまた妖怪が好きだ。妖怪、夢といった目に見えないものは子どもにとっては地位、財産、肩書といった目に見えるものよりも大きな価値なのである。

目に見えないものがあると信じている人たちが新型コロナに罹患しないと言わない。しかし、目に見えないものを畏敬し、尊重していれば、自粛生活

に大きなストレスを感じないとも言えるのではない。目に見えないものの価値を認めていけば、目に見えないからといってそれにおびえる気持ちは出てこない。

秋田の子どもたちにとって、なまはげは怖いけれど、ワクワクさせてくれる存在でもある。結局、目に見えないものを信じる人たちはウィルスを敬して遠ざけているという印象がある。

さて、事実を整理しておく。

世の中には、目に見えない世界を信じる人と信じていない人たちがいる。

今のところ、子どもたちは新型コロナウィルスに感染しづらい。

ふたつを結びつけて結論を出すことはしない。しかし、目に見えない世界を信じないよりも、目に見えない世界があると信じて行動する方が新型コロナウィルスを必要以上に恐れずに生活することができる。東北の人たちは自分たちが信じている目に見えない価値に支えられて、新型コロナウィルスと戦っているように見える。

補足

- 水木しげるは幸福の七か条を作っている。
- 新型コロナウィルスで国民全員が気鬱になっている今、医学や科学の話よりも、彼の言葉の方が私には響いていく。
- 成功や栄誉や勝ち負けを目的にことを行っていない。
- しないではいられないことをし続けなさい。
- 他人との比較ではない、あくまで自分の楽しさを追求すべし。
- 好きの力を信じる。
- 才能と収入は別、努力は人を裏切ると心得よ。
- 怠け者になりなさい。
- 目に見えない世界を信じる。

●野地 秩嘉 / プロフィール

1957年、東京生まれ。早稲田大学商学部卒。出版社勤務などを経て現職。人物ルポルタージュ、ビジネス、食、芸術、海外文化など幅広い分野で執筆。著書は『キャンティ物語』（幻冬舎）、『サービスの達人たち』（新潮社）、『ビートルズを呼んだ男』（小学館）、『高倉健ラストインタビュー』（プレジデント社）、『トヨタ物語』（日経BP社）など多数。『TOKYOオリンピック物語』でミズノスポーツライター賞優秀賞を受賞

AMABIE



NAMAHAGE



グリーンサム倶楽部メンバーの皆様よりメッセージをいただきました つれづれに...

渡部 一之

「わが心の故郷」

私はじーさんである。じーさんにも「わが心の故郷」がある。それは、小学生の頃に住んでいた、只見川水系にある奥会津の急峻な山また山「山峡の村」である。当時の冬には3〜4mもの雪が降る。四季がはっきりしているが、特に、全ての生き物が、待ちに待った春を迎える喜びは、自分にとっても全身を震わせるほど感動的である。夏にも、秋にも、冬にも、同じような感動が次々に起こる。その「感動」が「わが心の故郷」になっているのである。歳を重ねても、折に触れ「わが心の故郷」を思い出し、心の平穏を取り戻すのである。幾つになっても「わが心の故郷」があることにこの上ない幸せを感じる。

潟上市の子供達、ゲームを仕舞ってグリーンサムの杜へ出掛けよう！木や植物、色々な生き物、グラウンドや広場、水も風も青空も、自然に恵まれたものなら、何でも在る。一人ずつ好きなことをして過ごして欲しい。そして、君たちが社会人になった時にここを「わが心の故郷」と感じるほどに、この杜を楽しんで欲しい。人生の節目には、必ず「我が心の故郷」を訪ねてみたくなるはずだ。来てみたら「心の故郷」と感じる人をエネルギー源としてグリーンサムの杜はもっと進化して、人

私ごとですが...

安井香奈子

21世紀になって20年近くもたつこの時期にCOVID-19という疫病が降ってくる。春先からアムビエにお願したにも関わらず、秋田に住む私たちまでが感染蔓延を恐れなければいけない事態になってしまいました。楽しみにしていた東京オリンピックが延期になったことはとても残念なことですが、この事態が1年ずれていたら令和の御即位の行事に外国からの賓客をお迎えすることもできず、大きな差し障りがあったことでしょうか。不幸中の幸いとはこのことか、と思うこのごろです。

さて、私ごとですが、高齢の母を連れ出す不安は多少ありましたが、母の健脚に感謝、Gotoキャンペーンに感謝して二人で遠出を楽しんでいます。10月の八甲田山酸ヶ湯を皮切りに、栗駒山、夏油、瀬見、六甲山、京都で紅葉と温泉を堪能。関西は昨年の今頃と全く違う外国観光客がいらない街並みとなりました。京都



と自然の調和が取れた、心地よさを感じる杜に姿を変えていることだろう！それをまた感じて欲しい。

「ホタルの光」



習志野市に唯一残っている田んぼで、稲作をしながら、私は蛍の自然回帰を目指して、悪戦苦闘しています。ところで、ホタルの光を目の当たりにして、じーっと観たことがありますか？私はある時、目の前でホタルの光に触れる機会があり、暫くの間見ている間に、とてもとても、心地よい心持になって行く経験をしたことがあります。その時は心が折れそうな時期でしたが、全ての辛さや悩みは無意識の内に何時の間にか消えてしまいました。この心地良さって、デジヤウユの不可解で神秘的な感覚にも似ています。思い返してみると、これと全く同じ心地よい感覚は、小川のせせらぎの音、滴り落ちる雨音、木々の葉の擦れ合う音、木漏れ日のゆらゆら、そよ風・爽風・薫風、草花のそよぎ、などなど。これらは「ゆらぎ」として人の心を癒すことが、科学的に証明されています。皆さんもこのような心地よい体験なことはありませんか？経験がないと仰るのでしたら、グリーンサムの杜へ出向いて見て下さい。ここには私が列挙した「ゆらぎ」の全てが揃っており、誰でも何時でも「ゆらぎ」の中で、浮

の紅葉は例年になく素晴らしく、『この10年で稀なほどに紅が映える』との地元の方のお話が印象的でした。

旅行の話はさておき、旅行中ですが、マスクをつけるのはもちろん、つり革や駅の手すり、券売機などに触る機会が多い場合はビニール手袋（毛染めについてくるもので十分）を使う。など、正しい認識があれば感染不安は大幅に減ると確信いたしました。

余談ですが、ウシントンに住む友人は「毎日10万人以上がCOVID-19に感染している。国外に出るのはもちろん州を歩き来するのも制限されている。」

ホームセンターでの買い物も車の中で待ち、前の客が出てから店に入る。そんなことよりも、日本人から見れば一般に衛生観念が低いので、みんな早く帰ってお風呂に入って！と思う」と話していました。

私たちも鬱陶しいマスクなしで過ごせる日々が早くきますように。

* * *

自然体をオタクとして〜所感

石川 久男

2020年は、本当にいろいろありましたね。コロナの発現と蔓延、オリンピックの延期、アメリカの選挙バトル(トランプのババ抜き?)、そしてナマハゲもあつ

世のあれこれを超越し、「心地よい」と心が癒されます。ここでは、人も自然の一員であることを感じる事でしょう。グリーンサムの杜って、そのような場所なので。近くにお住いの皆様は何時でも杜に入り、自然の一員であることの生きる喜びを自覚出来るなんて、遠くに住まう私は地域の皆様が羨ましい限りです。でも、私が取り組んでいるホタルの自然回帰に成功した暁には、このグリーンサムの杜に加わって、ホタルの自然回帰にトライして皆さんを癒してみたいとの願望を静かに温めているこの頃です。

異文化と日本人

近藤 博

昭和五七年から、在外教育施設派遣教員として、マレーシア国・ペナン日本人学校に家族と共に、三年間赴任した。当時は、外務省が所管で、赴任早々に地の保安について、担当官より説明された。夜の車利用は、停車しても窓を開けないこと。家の屋根瓦を破って侵入された時に、犯人の顔は絶対に直視しないこと。財布は事前に二個用意し、顔を上げないで金

と驚く郷土初の総理大臣誕生、等々...

そして私事では、6人兄弟揃って70歳を超えたばかりで、4番目の妹が74歳で初めての死亡という事で、欠落感と共に、私自身年が明ければ数えの80歳いわゆる傘寿を迎える老境にあることを実感している次第。幸い今のところ日々健康に過ごしているが、これも幼少の頃、湯の河口や出戸浜で覚えた我流の泳ぎが最大の健康法で、週3回ほど50mの温水プールで解放感を満喫している。会長(むつみ造園)得意のナイスショットには及ぶべくもないことであるが...

目下最大の難題は、コロナであるが、東京はとにかく陽性数が多いので、極めてナーバスな状況で、各種の会合が軒並み中止になるなどで外出も減り、在宅の楽しみといえば、なんといつてもテレビが主役ということになる訳だが、コロナの影響で再、再々放送が多いので興味半減。その中で私的にも心安らぐのは、旅番組。特に鉄道を舞台にしたもので「飲み鉄本線...」等とくれば、こちらもちついつい酒量オーバーとなる次第。これも、10年ほど前70歳を目前にしてリタイヤするまで専らの仕事が鉄道関連だったゆえんか。鉄道といえば、写真の「撮り鉄」各種列車の「乗り鉄」など「オタク」の宝庫でもある。「オタク」の語義には幅があるようだが、好きなコトやモノに愛着や興味を持つコトは共通している。ただ、鉄道オタク

額の少ない方を差し伸べる。また、欧米人は勇敢に挑戦するので殺されることがある。等の生活の注意を強調された。

しかし、残念ながら、赴任の期間中に日本企業の方が銀行か会社に戻る途中に尾行され、お金と命を奪われた。邦人の方々は、恐怖と帰国の念を高めた。厳しい体験であった。

海外での義務教育については、ある程度の児童生徒がまれば、日本人会や保護者等の合意で施設や運営は可能である。学校は九年制である。派遣教員は、文部省で選考派遣している。

私は、秋田から自家用車を船舶で送って三ヶ月後に受け取った。現地の住宅は、二階建ての庭付きである。家事等のお手伝いさんや、庭掃除屋さん。当初はドライバーさんもお願いした。こんな贅沢な思いは、二度とない体験でした。

赴任した当時の首相は、マハティールさんで、有名な「ルックイースト」東方に学ぶの政治家であり、秋田大学にも毎年二十人程の留学生が居ました。回国は、回教徒である。

マレー語「アサ(断食)」の期間は、国民一体で、日の出から日没までの間は、五回のお祈りがあり、飲食等は日中一切とることが出来ない。我が国も、宗教は別として、年に一度は、一体になった融和や強調が欲しいなどと思うこの頃である。

* * *

が行動を伴うのに対し若年層に著しいスマホオタク⇨依存状態はヴァーチャルに偏っている。スマホ自体は極めて有用なものであるが、ゲームやSNSにはまつたりすると、幼少期には抑制が効かず、脳を主体に発育・生育に弊害が多いと(今朝来た新聞に書いてある)「陽水さんご免」。私見ではあるが適度な「オタク」感性は、幼少期の成長には必要なことであり長じて個々の人生形成に影響している。

私事ではあるが、ふるさとで過ごした幼少期に「鉄道」どこまでも続いているというコトへの憧れめいたもの、「専攻ー建築」⇨実家の前が鍛冶屋さんでフィロから取り出された真っ赤な鉄がカンカンと叩く音とともにナタヤクワに変わっていくように魅了されモノづくり(建築)へ...。その他サッカーなどいろいろ挙げられるが、今様のスマホやSNSと決定的に違うのは等身大の実体験ということである。鉄は熱いうちに打てではないが、幼少の頃に自然に親しみいろいろな体験を重ねることで、いい意味での等身大の「オタク」を身につけることが大切なことであろう。「グリーンサムの杜」の素晴らしい環境の中で躍動する子どもたちの姿に、明るい未来を見るのは私一人ではないだろう。畏友佐々木会長に心からのエールを送る次第である。

*皆さんありがとうございました。

「わざわざとインフラストラクチャー」

NPO法人秋田グリーンサム倶楽部 理事
秋田大学名誉教授

かわ かみ まこと
川上 洵

はじめに

「わざわざ」のうちで、「災い」は文字どおり水と火に係る災害であり、また、「禍」は神のつがめであり、思いがけず受ける不幸な出来事である。ここ数年、地震・風水害などの自然災害が多発し、そして、この1年はコロナ禍で世界中が翻弄され、未だ終息の目途が立たず、不安な日々が続いています。今は、これらの災禍と向き合うインフラについて考える好い機会です。

自然災害とインフラ

「自然災害による被害は、ハザード・曝露量・脆弱性の関係で決まります(図-1)。「ハザード」は、豪雨、台風、地震、噴火などの危険な自然現象であり、災害外力あるいは外力です。「曝露量」はハザードに曝される社会システムの度合いであり、たとえば地震発生時の震源地からの距離であるとか、ある強さ以上の揺れに曝される人口の分布等を指します。「脆弱性」はハザードの影響を受けやすさであり、建造物の倒壊・損壊を防ぐ耐震化などのハード面と災害に備えての教育・避難マニュアルの整備などソフト面からの対策が求められます。



図-1 災害とハザード、曝露、脆弱性の関係

これまでインフラは災害外力を予測し、被害を抑えるよう整備されてきました。しかし、近年の局所化・集中化・激甚化する豪雨にみられるように、ハザードがこれまで経験したことのないレベルに質が変化しています。また、曝露量および脆弱性はともに地域の状況および時間軸とともに変化し、ハザードへの対応が不十分なために大規模災害が常態化しています。

インフラ・構造物は、新設時に要求性能をクリアしていても、長期間供用しているうちに老朽化が進行したり、基準となる耐震

性能が満足できなくなるものもできます(図-2)。構造性能が相対的に低下すると、同じ外力を受けても損傷度は大きくなり、極端な場合には崩壊します。したがって構造物では、点検・補修・補強等のメンテナンスを適切に施し、常に高レベルの構造性能の保持が重要となります。

地震などによる災害はほぼ瞬間に起き、数十秒間で世界が一変してしまいます。そこで求められるのはレジリエンスであり、外力による損傷度すなわち構造性能低下を最小限に止め、早急に求められる性能に戻すことです。

新型コロナウイルスと感染症

世界保健機関(WHO)による新型コロナウイルス感染症の正式名称は、「COVID-19 (coronavirus disease 2019)」であり、ウイルス名は「SARS-CoV-2」です。このウイルスが世界中で猛威をふるい、2020年の年末においても感染の拡大が続いています。WHOによる感染症に関するリスク評価の三要素は、自然災害と同様に、ハザード評価・曝露評価・状況評価であり、そのような評価をもとにリスクが推定されます。

感染症リスク = ハザード評価*曝露評価*状況評価

「ハザード評価」はウイルスそのものの症状、潜伏期間、感染経路等です。「曝露評価」はウイルスとひとの接触度合いであり、人の密集度や移動等が係り、「状況評価」は個人の栄養・健康状態はじめ公衆衛生や医療インフラの整備状況を指します。

図-2のとおり、人は年齢を重ねるごとに機能が低下し、弱体化します。コロナ禍においては、曝露評価の観点から、三密を避け、マスクをして、うがいと手洗いを徹底するのが基本です。また、状況評価から、高齢者そして基礎疾患があるひとは、重症化率および死亡率が大幅に上昇します。ひとも定期不定期の検査を行い、早期発見・早期治療につとめ、健康の維持につとめることが求められます。

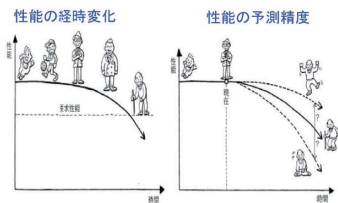


図-2 構造物の性能の変化と予測

災禍後の世界

災禍前後の動きの幾つかを歴史で振り返ってみます。中世のヨーロッパにおいて、ペスト禍により人口が激減し、そのため労働力不足となり荘園制が崩壊し、宗教改革が始まりました。また、17-18世紀に大流行した天然痘は19世紀に入り制圧され、その後人口が急増して産業革命が起こりました。さらにその産業革命後にコレラと結核が発生しますが、コレラ禍を切っ掛けに下水道の整備が進みました。また、1666年のロンドン大火を機に石造建築が義務化されました。20世紀には、人類史上最大級の被害といわれるスペイン風邪が世界流行しますが、そのため第1次世界大戦の終結が早まりました。

わが国においても、明治19年(1886)にコレラが発生し、国内感染者が約16万人、致死率70%と被害は深刻でした。秋田県における感染者は4900人そして死者2800人を数え、このコレラ禍をうけ、藤倉ダム(秋田市旭川)が建設されました。本ダムは、明治40年(1907)から昭和48年(1973)までの長きにわたり、良質の上水および防火用水の提供に寄与しました。日本三大美堰堤のひとつに数えられ、今もその美しい姿をみることが出来ます。

おわりに

今世紀に入ってもSARS、MERSに新型コロナウイルスと引きも切らずに襲ってきていますが、転禍為福です。社会およびインフラは、災禍を乗り越え、より強靱でサステナブルなものに変わっていきます。

パリでは、1910年に洪水、そして2019年にはノートルダム大聖堂が火災にみまわれました。そのパリ市の紋章には、川に浮かぶ船が描かれ、「たゆたえども沈まず」とラテン語で標されています。目の前の不確かさや不思議なことを自然体で受け入れ、できればその宙ぶらりんを愉しむほどの余裕を持って、災禍に向き合いたいものです。

PICK UP! Greenthumb Friends! ①



リンゴの木に和ナシと洋ナシ？
接ぎ木の名人、吉田さんの挑戦。

「吉田果樹園」代表・吉田寛さん

御年88歳の接ぎ木の匠、吉田寛さん。匠と言われているのは、1本の木に次々と接ぎ木をして、今では10数種類ものフルーツが実っているという、摩訶不思議な光景になっている所以。洋ナシのパートレットの木に、ラ・フランスとルレクチェ、和ナシの新雪、秋泉、リンゴの紅あかり・主林…。本場に、1本の木に数々の実がなっていました。それも、1本だけではなく、豊水にラ・フランスを接いだ木など、いろいろと試みている木がそこかしこに育っています。

吉田果樹園では、贈答用のフルーツ詰め合わせの箱には「枝や葉っぱ」を入れるのだそう。スーパーでは葉っぱのカタチは分からないから、お楽しみみとして入れるようになったとのこと。吉田さんの果樹へ対する優しい思いが伝わってきます。接ぎ木をする時も、来年再来年ではなく、5年後くらいを想像して接いでいくんだと教えてくださいました。「いっぱい失敗したから分かるんだ」と笑顔の吉田さんです。

中学生のお孫さんが「果樹園を継ぐ」と言ってくれたと喜ぶ吉田さん。果樹園で練習しているというお孫さんのトロンボーンの音色が、フルーツの甘さを引き立ててくれるかもしれない。



糖度計でブドウの糖度を測る吉田さん。糖度計を覗き込んでいたブドウの糖度は23度と、本当に甘くて美味しかった。

果樹園を上空から撮影。赤い屋根の建物が吉田さんの作業場で、奥には八郎湯、男鹿半島方面の景色が広がっています。



吉田果樹園

〒010-0202
秋田県潟上市天王大崎字沖中谷地1
TEL.080-8203-6684
FAX.018-878-4905

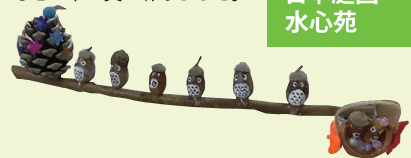
コロナに負けるな！ 3密回避で GO to Park!

withコロナで新しい生活様式となった2020年。ソーシャルディスタンスを守りながら、気分転換に、運動不足解消に、自然の中での癒やし体験に、公園を活用してはいかがでしょうか？



●小泉瀉公園パークセンター
秋田県秋田市金足鳩崎字後谷地21
TEL.018-873-5272 FAX.018-873-7313
<http://www.koizumigatapark.jp/>

小泉瀉公園パークセンターで「秋の木の実工作体験」トチの実や松ぼっくり、ドングリなどの木の実に作りました。



秋田県立 小泉瀉公園 日本庭園 水心苑

噴水広場が人気の小泉瀉公園と 紅葉が素晴らしい水心苑

小泉瀉公園は湿原植物群落の県指定天然記念物の男瀉と女瀉を中心に、広大な自然を巧みに利用しながら整備されています。秋田県では初めての本格的な林泉廻遊式日本庭園の水心苑、キャッチボールのできる芝生の多目的広場やグリーンスロープ、子どもでいっぱいの大型遊具、バーベキュー広場、子どもに人気の噴水広場、野外ステージ、テニスコート等、自然を存分に楽しめる公園です。



水心苑の夜間公開「紅葉ライトアップ2020」は3日間行われ、夜間入園者数は、過去最高の1214名の方がいらっしゃいました。日中の美しい紅葉とライトアップもまた違った表情があり、夜空とのコラボレーションが紅葉の美しさを引き立たせました。



秋田県農業研修 センター 生態系公園

秋の生態系公園まつり開催できました

生態系公園は秋田の自然をモデルにして作られた野外公園とランやハイビスカス・ブーゲンビリアが咲く熱帯観賞温室が人気スポットです。広々とした野外公園では自然体験や植物観察、散策ができ、一年中熱帯の珍しい花々が咲く観賞温室ではハワイ気分も楽しめます。

10月4日には、規模を縮小して「秋の生態系公園まつり」を開催しました。鉄道模型のGコースの展示をはじめ、輪投げや射的、ボーリングゲーム等の縁日コーナー、公園スタンプラリーなどなど、お楽しみが盛りだくさんの園内。あいにくのお天気だったこともあり少人数でしたが、ソーシャルディスタンスを取りながら楽しむことができました。



●秋田県農業研修センター・生態系公園
秋田県大瀧村字東一丁目一番地
TEL.0185-45-3106 FAX.0185-27-8474
<http://www.seitaikeipark.jp/>



●太田ふれあいの里・グラウンドゴルフ場
秋田県大仙市太田町太田字惣行小坂
担当機関等/大仙市役所 太田支所 地域振興課
TEL.0187-88-1112

太田ふれあいの里・ 秋田太田奥羽グランドゴルフ場

太田ふれあいの里は、奥羽山荘周辺に広がる16ヘクタールもの広大なゾーンに、多くの野外活動施設や温泉宿泊施設を備えたアウトドアの一大拠点になっています。中でもグラウンド・ゴルフ場は、(公社)日本グラウンド・ゴルフ協会認定コースの国内屈指の広さで、全国から愛好者が集っています。南部忠平杯グラウンド・ゴルフ大会など、全国規模の大会のほか、各種大会が毎年開催されています。人とのふれあい、自然とのふれあいを楽しみながら心と体をリフレッシュ。四季折々を楽しめる大自然の中で、安心して満喫できます。

《里の主な施設》 ●秋田太田奥羽グランド・ゴルフ場 ●バーベキューハウス ●バッテリーカーコース ●サイクリングロード ●テニスコート ●国民休養地 奥羽山荘 ●ふれあい館

太田 ふれあいの里



PICK UP! Greenthumb Friends! ②



木に触れると尊敬と感謝の
気持ちが生まれてきます。

思い出の「木」で作る、世界にひとつだけのペン。枝でもテーブルでも、思い出の「木」で、ペンをつくってみてはいかがでしょうか? (¥5,000~)

工房の2階にある、家具や器など作品がたっぷりの素敵なギャラリー。



工房にいても自然の風を感じながら作業をする岡本さん。



看板犬の小豆と岡本さん。木工舎つきのわの名前の由来は、小豆の喉元にある、2つの月の輪のような模様から付けられたそうです。

由利本荘市在住の木工作家、岡本雄さん。のんびりとした田園風景が広がる旧大内町に「木工舎つきのわ」の工房とギャラリーがありました。岡本さんは、ゆったりとした時間の流れる工房で、日々創作活動をされています。また、鳥海山 木のおもちゃ美術館で子ども向けのワークショップを開催したり、活動の幅を広げられています。

岡本さんの趣味はアフリカの太鼓ジャンベとアフリカダンス。なんでもギニアに1ヶ月以上滞在したこともあるそう。奥さまともアフリカつながりで出会い、一緒にダンスや演奏を楽しんでいらつやいます。今でも人と人との縁ができていくというっており、むつみ造園との出会いもジャンベで、木工作家と造園会社との出会いは、シンプルに引き寄せられたように感じました。

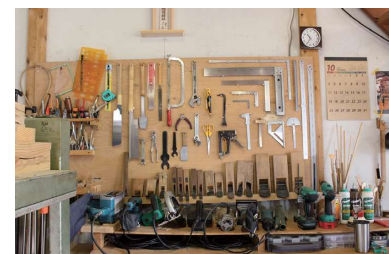
つきのわで販売されている器やカトラリーは、木の手触りや色合いが残された、食用油仕上げとなっています。「木」に対する岡本さんの尊敬と感謝の気持ち。命をいかしたもののづくり、作品の誕生を心待ちにしております。

(プロフィール)
岡本雄(おかもとゆう)
1984年 秋田県美郷町生まれ
2007年 大阪芸術大学デザイン学科卒業
岐阜県高山市の家具会社に勤務
2014年 岩手県の木工所に勤務
2015年 秋田県由利本荘市に移り、独立



木工舎つきのわ

〒018-0851
秋田県由利本荘市平軸字牛王瀬14
TEL.090-3270-7730
FAX.0184-66-2395
mail tsukinowa331@gmail.com



きちんと整頓された道具たちはどこに何があるのか一目でわかる。



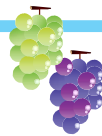
コロナ禍で各イベントの中止が相次いだ中で、10月ようやく再開された「木のおもちゃ美術館」のイベントに出席。お天気に恵まれ、お客様への対応で大忙しの様子でした。

「木工舎つきのわ」代表・岡本雄さん



Kazuyoshi Yatsuyanagi

果樹園・ワイナリーを 総括する八柳一義



ブドウの栽培管理の仕事をしています。ワイン用のブドウと生食用のブドウの栽培は育て方も違い、いろいろな果樹も品種によって扱いが変わります。私は以前、秋田県農林水産技術センター果樹試験場天王分校で2年間スタッフとして勉強してきました。今でも勉強の連続です。これからお客様のニーズに合わせて栽培していきたいと思えます。

2021年になります、3年目に収穫するブドウの一部の品種をワインにしてみようということで、とても楽しみにしています。



ブドウの冬季剪定を指導中(左より)八柳、澤田石、渡部

Masashi Watanabe

どんな仕事も楽しくこなす 果樹園担当渡部正志



私は日本食堂の食堂車の業務など、20年以上調理の仕事に就いていました。果樹園の仕事は経験がないのですが、八柳さんや天王の果樹試験場のスタッフの方から仕事を教わり、勉強の毎日です。

果樹園に入り2年目になりましたが、来年や再来年を見越しての剪定や枝のセットなど、難しいと思います。難しい分、来年ブドウがどうなるのかなという「楽しみ」、ワインができるまでの道と一緒に歩める「希望」がある仕事だと思っています。

庭園プロジェクトチーム始動!

「緑産業の未来に向けて」をテーマに、果樹園と庭園を核とした、未来の新規事業・緑産業のテーマパークを創ろうと挑戦しています。日本庭園「水心苑」などのお手伝いそしてプラン、築庭してきたベテランの杉村文夫を中心にプロジェクトチームを結成しました。庭園テーマパーク等全体のデザインを杉村が設

計し、ミナト造園の湊さんが現場担当に加わり、細部のデザインは上村が検討し、全体のプロデューサーとして佐々木がまとめていくチームです。次世代にもつなげていきたいと若手の牧野もチームに参加することになり、若手の感性も取り入れながら進めていきます。



現場を視察中の(左から)牧野、上村、湊さん、杉村



先行ワインのテイストを研究、グリーンサム・ワインのオリジナルテイストについて意見交換。

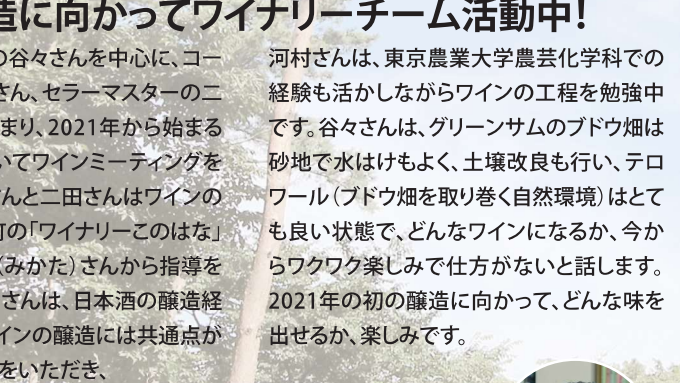
花や緑を愛する女子メンバーも活躍中!

グリーンサムの杜に隣接しているさんぽ駅周辺の植え込み、入口の道路に面した花壇のデザインやレストラン前のボーダーガーデンの花の管理を行っている泉田と大野。お客さまと直接関わりがあるわけではない仕事ですが、除草後など花壇が整った時にスタッフ同士で「キレイになったね」と言い合う瞬間、充実感があるといえます。

主にパークゴルフの受付業務を担当している関谷は、接客のほか、レストラン周りや花壇などの手入れで、お客様が気持ちよくなってもらいたいと、素敵なお顔をみせてくれました。今後は、通学路 600m余りの沿道の植栽などを予定しています。花や樹木、緑で街がキレイになっていくのが楽しいですね、と活躍中の3人です。



杜の舞台の設計者杉村と、石組みの周りの植栽の打ち合わせをしている泉田



プロデューサー 谷々兼慶(谷々かかねよし)さん

緑産業の未来づくり、杜とガーデンの 品質(品格と本質)を高める匠の人びと

コロナ禍において、地方のあり方がますます注目されるようになりました。私たちは、果樹園と庭園を核とした「緑産業のテーマパーク」に挑戦します。



Isamu Sindo

重機オペレーター50年の進藤 勇

重機オペレーターの仕事に就いて50年になりました。若い時は千葉県でも仕事をしてきました。グリーンサムの杜には、15年程前の整地から携わり、パークゴルフ場やキャンプ場、サッカー場等ずっと仕事で関わっています。

写真はミニバックホーで苗木を植えるための整地をしているところです。重機のオペレーションは、長年仕事を続けているからこそ分かったコツがあります。これからも経験を生かして勤務していけたらと思います。



バックホーの運転に必要な資格は「車両系建設機械運転技能講習」です。重機によって必要な資格が違います。

Satoru Suzuki

グリーンキーパー30年のベテラン鈴木 悟

私は群馬県等のゴルフ場でグリーンキーパーを30年程経験してきました。杜のパークゴルフ場でのキーパー歴は4年です。パークゴルフ場ではお客様とのコミュニケーションの中で、芝の管理について気付かされることもあります。

また、ゴルフ場にはキャンプ場やサウナ等が隣接されているので、たくさんの方に利用してもらいたいです。夏にはカブトムシ、秋には大きなドングリの実が落ちていたので、子ども向けに採取するイベントができれば楽しいなと思います。



グリーンモアで杜の舞台の芝刈り

豊富な経験で Katsuhiko Toma

どんな注文も対応できる大工遠間勝彦

今年の4月からグリーンサムの仕事をするようになりました。大工歴は60年です。仕事に関しては誰にも負けたくないと思ってきました。関東近郊や北海道などで経験を積みました。大工仕事は素材の特性が長所や短所があるので、

その知識と、お客さまに即答できる対応力が必要だと思います。今は果樹園のスタッフが一息つける休憩所を作っています。先日薪ストーブが入りました。もうすぐトイレも完成します。出来上がったら、スタッフにゆっくりくつろいでもらいたいです。



Kousuke Sato

芝草監理技術者2級 日本芝草学会員 美しい芝生を造り上げる グリーンキーパー佐藤公介



芝生の管理の仕事は7年目となりました。グリーンサムの杜の舞台にあるグリーンは冬でも枯れずに綺麗な濃い緑色です。またサッカー場やグリーンサムガーデンは日本芝なので、冬場は枯れて茶色になります。西洋芝は日本芝よりも成長スピードが早いので、芝刈り、肥料、水やりなどの回数が多く必要なんです。特に夏場は乾燥に弱く夏枯れをおこすので手を抜けませんね。芝生の特性で、それぞれ美しい時季というものがありますから、美しく仕上がった時にぜひ、楽しんでもらいたいです。

コマツターフグラスマネージメント代表の小松氏(手前)と芝生の生育状態をチェックしています。

ただいま修行真っ最中!澤田石乾太

入社して3年目、まだまだ修行中です。果樹園に行けば剪定の仕方やお手入れの仕方を八柳さんや渡部さんに教えてもらっています。またグリーンキーパーの仕事も、佐藤さんや鈴木さんに基本的なことから教わっているところです。いろいろな現場に行くと、それぞれの仕事のコツなども勉強になることばかりです。

何事にも一生懸命に取り組み、諸先輩たちの言葉や仕事の仕方を自分なりに吸収して頑張りたいと思います。

歩行型のグリーンモアを使用中の澤田石

グリーンサム倶楽部メンバーの谷々さんはワイン歴 50 年の豊富な知識の持ち主です。グリーンサム・ワイナリーのスタートに向けてワインの様々なおもしろい知識を掲載していただきます。今後のグリーンサム・ワイナリーと一緒にワイン講座もお楽しみに！

グリーンサムワイン講座・序章

グラスの先に見えるバラ色の未来

NPO法人秋田グリーンサム倶楽部 理事 **谷々兼慶**



ワインは食事を美味しくさせる

日本で本格的なワインが飲まれるようになったのは、前の東京オリンピックの年1964年と言われています。そして一般家庭に浸透していくのは、大阪万博の1970年。この二大イベントで日本は、先の大戦からの復興を世界に示すことになりました。

70年は、1000円ワインも登場し一般市民が手に取りやすくなったのも普及に与って力があつたようです。

私は、この年の4月に旧建設省入省。近所の酒店の棚に飾ってあつた「メルシャン・ロゼ」の美しい色に魅かれ(まさに色香に迷い)手に取つたのがワインにハマつたきっかけでした。以来、半世紀の付き合いとなりました。

そのワインはメルシャン・ロゼ(@700円)、中口(甘くない)で料理とのマッチングは幅広く、マリアージュというほどではないにせよ「食べ物を美味しくさせる」うってつけの飲み物でした。給与をいただくと箱買いするものですから店主からは、熱烈歓迎・上得意待遇でした。それもそのはず、一般客向けのワイン売り上げが市内NO.1になったのは、私の貢献も大だったようです。

ワインは体験だ

その半年後、メルシャンの若き営業マンSさんを紹介されました。Sさんは、ワインの売り込みに意欲満々でした。「ワインは体験

だ」が彼の口癖でした。これは、たくさんワインを買わせるセールス・トークかと警戒していましたが、さにあらず彼の本音・信条でした。お互いにニュー・フェースで、ワインの初心者でもありましたので率直に意見交換できました。セパーージュ(品種)の特性・味わいなど、Sさんとの会話が弾みました。ワインを飲み始めた頃、ワイン本を購入し時折目を通しておりました。若干難解だったのですが、知識は、確実に蓄積されワインの何たるかを知るのに役に立ちました。

日常的にワインを飲み、ワインの知識があることが評価され、メルシャン扱いのいろんなワインをモニターとして提供してくれる運びになりました。その上、プロの方々(ホテルやレストラン)向けの講習会に呼んでくれるというおまけ付です。

営業マンのSさんにとっては、一般の消費者の志向把握(マーケティング)の一環だったのかもしれませんが、私にとっては、まさに「体験」を実現するまたとない機会となり、無垢の若い時代に本物を実体験できたことは、幸運でした。

すぐには飲めないワイン

数年後、メルシャンの「勝沼ワイナリー」見学が実現し2月にシャトーを訪問いたしました。剪定の終わった「城の平」の葡萄畑、ワイナリー、セラーと回り、セラーでは樽・タンクからワインをサンプリング。20数種類をダイニングで利き酒するという夢の

ような一時でした。ただ、新しく仕込んだワイン(赤)は、荒々しくタンニンがきつく飲めたものではない(熟成が必要)のですが、工場長と醸造課長は、その荒々しいワインの中に美質を見出し「〇年後が楽しみだね」との未来を予知するような会話をしていたのにはとても驚きました。

ワインは風土の反映

良いワインは、良い葡萄から。酒類で農業が一番近いのがワイン。土壌・水はけ・日照・吹き渡る風・気候～ワインは、まさに風土の反映といえます。

グリーンサムのワインも潟上の風土を利用して、良いワインが出来上がると心から期待しています。

良いワインは、「香り立つ」そして「ボディがある」

世界的なワイン・コンクールの審査委員でもあるメルシャン・勝沼ワイナリーの関根工場長が仰つた、良いワインは「香り立つ」そして「ボディがある」との言葉は示唆に富んでいます。グリーンサムのワインも「馥郁と香り」「しっかりした存在感」のあるワインに仕上げ、皆さんと一緒に育てていきたいものです。

A Votre Santé (ア・ヴォートル・サンテ)

次号をお楽しみに！

2025年「杜とガーデン」グラウンドオープンを目指して！

生命あるものが、何故にかくまでも美しく存在するの…。

その疑問を、恐竜・クジラから犬まで、多彩な花々と草木、チョウや昆虫、そして魚や貝殻など、多種多様な形態を見較べ、独自の手法によって探求する。あらゆる「かたち」が最も美しいプロポーション(黄金分割比率)へと収斂することを解明し、自然界のダイナミズムと調和の意味するものを、全くのユニークで大胆な思想へと構築する。これは尊敬する大学名誉教授より贈られた本「デザイン」の自然学」の表紙コピーです。又昨年、東京で真言密教の至宝や空海がつくり上げた21体の仏像からなる立体曼荼羅のうち15体が出来品された展示会を拝観する機会がありました。そして私たち造園関係者なら誰もが勉強する夢窓疎石。先哲、枯山水の庭で「宇宙とは心の概念である」と語る。疎石と弟子孫二郎の会話を紹介します。

疎石：人生にとって最も大切なものは何だ。孫二郎：それは損とか徳とかを離れて酬いを求めぬ「愛」ではないかと…。

疎石：「愛を強くするにはどうすればよいか。孫二郎：妨げとなる「憎む心」をできるだけ弱くすることでございます。憎しみが少なくなればそれだけ愛は強くなります。

疎石：経を讀み学んでも、単なる知識を集めるのみで孫二郎は何ひとつわかっておらぬことに気付くであろう。われらは、経から離れ、われらの周囲にある天地万物を見ねばならぬ。そして、自分の心でじつと観る。孫二郎よ、森の樹々をよく見れば解ることだ。わしの庭は、その自然を表現しようとしたものだ。経ではなく自然に対し、自然になりきって同化する。そうすれば「天地万物総てが、

もでなく精神の世界である」ということが解ってくる。空とはそのことよ。わしも孫二郎も自分の精神である世における愛する人と会えるのではないか。「愛する」という精神のそれを可能にしてくれる。土岐信吉著「夢窓疎石」より

70年代に音楽業界から転身、自然音を傑出した録音収集家となったバーニー・クラウスが生物が織りなすサウンドスケープの意味を探るうち、音響にもつく生態学の可能性を切り開く二つの仮説にたどり着く。さらに野生のオーケストラと音楽の起源の関連を追って彼の関心は様々な民族文化へも分け入っていく…。チェルノブイリの事故から3年たった頃、徐々に野生生物の音が戻ってきた。人間が引揚げた地で自然の音は元どりに豊かに融合し、野生生物は再びはっきり区分された周波数地域でそれぞれ鳴くようになった。

世界樹または宇宙樹、もとは北欧神話に出てくる世界を支える樹。世界の中心に幹を伸ばし、枝葉は世界を覆う。根は3本あり、それぞれ人間界・巨人界・冥界に伸びている。根のそばの泉で神々が毎日集い、様々なことを協議し、審判を下す。生と叡智、思惟の象徴。「宇宙樹」竹村真著「は常に私たちの身のまわりに現存している。春になると当たり前に花が咲くのも、植物という形をかりた宇宙的知性のあらわれだ。人間と植物がともに花開くための新たな文明の尺度を提起する。

またブラックエレファントと言われる新型コロナウイルスは、世界規模のパンデミックとなりました。見えない、聞こえないけど、いのある様々なのがサイエンスの進化とともに

に明らかになった。私たちのおなかの中にも何十兆の菌が私たちの命を支えあつて共生していることが解つた。土壌菌などの研究もまだまだこれからです。

私は創業者の親父よりトップを引き継ぎいたのは昭和58年。何かビジョンらしいことを考え、社是を「創造の真髓」と定めました。バブルが終わつた平成の初め、建設業不況も現実となり、この先のイノベーションの取り組みとして始めたのが公益活動(CSR)の地域環境林の清掃活動、1995年です。そして2025年で30年となります。弱小資本での取り組みはやはり時間がかかります。それでも休むことなく続けて来れたのは、ご指導いただいている国、県、市の皆様。そして社員、スアークホルダー、お客様、地域住民の熱いご理解ご支援があつてのこと、衷心より感謝申し上げます。

杜とガーデンもいよいよ最終章となります。自然資本活用用のテーマ庭園の整備は、2021年から2022年がとて重要になります。前述しました先人の方々の思想、作品を参考にし、みなぎる命、あらゆる喜びがつつながり、人びとの五感が花開き、永遠に深まるパワースポット創りです。むつみチームとしてどこまで完成形を高められるか、最善を尽くす所存です。そして、運営面のソフトパワーの充実も大切です。

つきましては、関係者の方々に貴重なご意見をいただければ幸いです。是非一度、いや何度となくご意見をいただけることを希望します。杜とガーデンへ足を運んでください、お待ちしております。

感謝合掌

むつみ造園(株) 会長

佐々木吉和

